

## スリランカ空軍と航空自衛隊、米空軍の搜索救助チームと交換会 *Sri Lanka Air Force, JASDF, meet with USAF Search and Rescue*

February 25, 2019

By Staff Sgt. Kyle Johnson  
374th Airlift Wing Public Affairs

2月13日、横田基地で行われた第459空輸中隊主催の3カ国搜索救助交換会にスリランカ空軍および航空自衛隊の代表団が参加した。

交換会では、スリランカ空軍、自衛隊、米空軍が人道支援任務での効率的な調整の強化を図る目的で、搜索救助作戦の手法について互いの情報を共有し合った。

搜索救助の支援強化に焦点を当てた自衛隊とスリランカ空軍との防衛協力は、今回が初めて。スリランカの代表団は、横田基地のほか、入間基地と百里基地も訪れた。

米空軍とスリランカ空軍の隊員の協議で搜索救助活動に重点が置かれていた中、防衛省が第459空輸中隊に自衛隊部隊の専門技術を披露する機会を提供したことを機に、同中隊は3カ国で協議を行う試みに踏み出した。その計画は、2018年10月にインド太平洋軍能力開発ワーキング・グループを終えて間もない頃に始まり、スリランカ空軍が主催した2018年5月の米・スリランカ軍の隊員による協議から特定の搜索救助要請に焦点を当てるように働きかけた。

自衛隊との調整を通じて、スリランカ空軍統合参謀総長・調整部長カピラ・ワニガソーリア准将が防衛省国際政策課の代表と第459空輸中隊を訪れた際に計画は現実のものとなった。

「我々は、スリランカ空軍と自衛隊の隊員にUH-1の航空医療搬送と搜索救助能力を見せた」と第459空輸中隊司令のスコット・アダマス中佐は述べた。さらに、ケンジ・タカオ中佐(従軍医)と第374医療群のチームメンバーは、医療技術の組み合わせをどう搜索救助作戦に活かせるか、その考察や専門知識を共有した。

主題の専門官の交換会の一環として、第459空輸中隊教官パイロットのデイビッド・シャドイン大尉は、米空軍の搜索救助手順と回転・固定翼の操縦ならびに医療、地上部隊の搜索救助支援作戦について専門知識を有する6人のスリランカ空兵の手順を比較した。交換会のあと、ワニガソーリア准将と彼のチームメンバーは、搜索救助作戦用に装備されたUH-1Nの展示を視察した。

「ホスト国と諸外国との関係にさらされる機会が多いほど、人道支援や災害救援を行う際によりよく実践できる」とアダマス中佐は話す。こうした実りある多国間交換会は、同盟とパートナーシップを強化し、搜索救助の戦術、技法、手順における共通の理解を確立する。この基盤は、継続的な取り組みや将来の実際の救助作戦に必要な共同支援を行う際に役立つ。

